

# 事業報告書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

## 1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

### (1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き実施した。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査、水の量・質などの調査を実施した。

事業費 1,175,181円(予算額1,180,000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日 程 平成28年 6月11日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

平成28年 6月～11月 水の採取等の現地調査実施

## (2) 人材育成事業

### 1) 一歩園自然セミナー開催事業

河川・海洋・森林に至るまで様々なフィールドでの自然環境の悪化が叫ばれている現代社会において、アイヌ民族の持つ世界観（文化）は自然現象、動物、植物などの人間生活に関わるすべての事象や「もの」に神の存在を認め、崇める姿勢であり、これからの私達の自然との付き合い方の大きなヒントであることから、厳冬期における阿寒湖の森林を舞台として、アイヌ文化を昔のアイヌの子供たちの遊びから感じるため、アイヌのかんじき「テシマ」の制作並びに、その「テシマ」とアイヌの山杖「クワ」を使用し、森林散策を体験する「体験！！昔のアイヌの遊びと暮らし in 阿寒の森」を開催した。

事業費 307,515円（予算額 551,000円）

#### 事業概要

日時 平成29年3月5日（日）

「テシマ」制作体験 9時40分～10時40分

森林散策他 11時00分～12時15分

会場 「テシマ」制作体験 阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ

森林散策他 阿寒湖畔国設スキー場周辺森林（財団管理森林内）

講演 阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ

参加者 29名

講 師 本田 優子 氏 (札幌大学副学長)  
村木 美幸 氏 (一般財団法人アイヌ民族博物館専務理事)  
秋辺日出男 氏 (阿寒湖アイヌ工芸協同組合専務理事)

## 2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費 1,000,000円 (予算額 1,000,000円)

## (3) 普及啓発事業

### 1) 観察会開催事業

#### (ア) ネイチャーウォッチング

「きのこ」は木材を腐らせる木材腐朽菌、落葉や動物の死骸などを分解する腐生菌、樹木との共生関係を築く菌根菌がり、これらの目には見えない「きのこ」の菌の強力な働きによって樹木(森林)が成り立ち、私達人間を含め、すべての地球生命の根源でもある「水・空気・食料・温度」等は維持されていることを、親子で秋のキノコを観察しながら、採取し、実際に味わってみることで、気づき、感じるため、実体験型自然観察会【「きのこ」は森のかくれた働き者・・・阿寒の森を親子キノコ探検隊が行く！！】を開催した。

事業費 414,910円 (予算額 413,000円)

事業概要

日 時	平成28年10月1日（土）午前10時00分～午後2時00分
現地観察	光の森（財団管理森林内／阿寒湖南側森林）ほか
室内講義	阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ
参加者	31名（釧路市全域公募の小学4年生～小学6年生ほか）
講師	奈良 泰世 氏（北海道キノコの会事務局長・環境省自然公園指導員） 齋藤 馨 氏（北海道キノコの会副会長） 中井 実 氏（北海道キノコの会会計部長） 平井 克哉 氏（北海道キノコの会会員） 久保 勲 氏（阿寒湖パークボランティアの会会員）

#### （イ）自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に自然体験プログラム（延べ12回、参加者372名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ、アメマス、エゾシカ）についてのプログラムを（延べ3回、参加者25名）実施した。

事業費 182,939円（予算額 332,000円）

#### 2）前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行った。また、札幌市におい

て、平成27年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事業費 4,451,305円（予算額 6,148,000円）

#### 事業概要

○平成28年度被助成者

①森田 文子

助成内容：樽前自然観察園の整備、助成額：330千円（苫小牧市）

②エゾシカネット

助成内容：親子 de エゾシカを知ろう in 道民の森、助成額：250千円（札幌市）

③雨竜沼湿原を愛する会

助成内容：仮称ウリュウコザクラの再発見 サラサの仲間の植物調査、助成額：700千円（雨竜町）

④山の手学園 平和幼稚園

助成内容：平和幼稚園 開園40周年記念 図鑑絵本作成事業、助成額：650千円（札幌市）

⑤CISEネットワーク

助成内容：自然環境保全理解のためのコウモリ調査及び教材開発、助成額：800千円（札幌市）

⑥環境NGOカピウ

助成内容：「エゾシカまるわかりキット」を用いた普及啓発活動、助成額：410千円（札幌市）

※ 助成総額 3,140,000円

○審査経過

平成28年1月15日 募集広報

平成28年4月27日 審査委員会開催（応募件数：道内外からの団体・個人より計20件）

○審査委員 梶本 孝博 氏（委員長）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

米津 久雄 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

3) 森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より試行的に取り組みを開始した「森の学校」事業において、「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）においては、森林を教育的に活用できる指導者の養成事業として北海道教育大学釧路校他と連携し「きっかけポン阿寒の森プロジェクト」を実施した。

また、「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）では「一步園森の案内人（ガイド）」の養成研修の実施及び地元親子向け森林体験等の事業を実施し、森林のさらなる活用に努めた。

「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）では6月2日前田記念館において、東京農業大学生物産業学部と連携協定を締結した。また、連携協定に基づき財団管理森林内において研究活動等の取り組みがなさ

れた。

平成28年度の「森の学校」事業詳細は、次のとおりである。

○「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）

・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林をフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生並びに現役教員等に対し、学校教育に係る教材発掘、活用を見据えた自然観察・体験活動をサポートした。

実施日並びに参加者

平成28年6月 3日～ 5日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等25名

平成29年2月15日～17日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等15名

平成28年6月 19日道東圏の小中学校教員、環境関連施設職員等 7名

○「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）

・「一歩園森の案内人」（ガイド）の養成

「一歩園森の案内人」養成研修の実施

必須研修及び選択研修を設定し、必須研修については全参加を義務付け、選択研修については全9種類の中から3種類以上の参加を義務付けて実施した。

## 実施日並びに実施内容

### 必須研修

平成28年11月 9日、11日、16日 森林施業体験（毎木調査）

平成29年 2月 7日 ガイド基礎研修（スノーシューによる散策ルート作成体験）

平成29年 2月28日、3月1日、4月10日 エゾシカ対策（給餌場・シカ罨見学）

平成29年 3月 5日 アイヌ文化と森林（昔の子供の遊びと暮らし）

### 選択研修

平成28年度は全9回。財団事業における、自然や森林等に係わる事業を重複し実施。

- ・地元親子向け森林体験事業（ファミリープログラム）の実施

地元の親子を対象に、自然に触れる機会の提供のため実施した。

平成28年8月28日（日）大人8名 子供18名 計26名

- 「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）

- ・財団管理森林を活用した実習等

平成28年6月9日 天然林施業（東京農大3年生、18名）

平成28年7月3日 学内自然ガイド養成研修（東京農大1・2年生、12名）

- ・財団管理森林を活用した卒業研究

天然林をテーマにした卒業研究「（東京農大4年生、3名）」

エゾシカをテーマにした卒業研究「（東京農大4年生、2名）」

事業費

743,494円（予算額 1,000,000円）

#### （4）顕彰事業

##### 前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈するとともに、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境保全活動への取組みの励みとなるよう一步園ジュニア自然環境賞及び一步園ジュニア自然環境賞奨励賞を贈呈した。

事業費

2,074,302円（予算額 2,263,000円）

事業概要

○前田一步園賞顕彰者

- ・高嶋八千代 氏（釧路市） 環境省釧路自然環境事務所推薦

業績：長年にわたり、釧路湿原国立公園並びに阿寒国立公園を中心とした道東地域において、希少植物及び外来植物の調査研究の傍ら、植物という観点から自然環境の保全活動を実践。また、子供から大人にいたるまで幅広く、専門分野である植物に関連した自然観察会、勉強会の講師も多く勤め、自然保護思想の普及啓発、人材育成にも携わる。

- ・山のトイレを考える会（札幌市） 環境省北海道地方環境事務所推薦

業績：北海道の豊かな山岳環境の保全と持続的な利用を目的に、登山者に対する普及啓発として「山の

トイレマップ」・「山のトイレマナーガイド」等の作成、配布とともに「山のトイレを考えるフォーラム」・「全道一斉山のトイレデー」などを開催、また、汚染や維持管理の問題を抱える場所の清掃、汲み取りに地道に取り組む、道内の山岳環境の保全に大きく寄与。

○一步園ジュニア自然環境賞

- ・茶内第一くるみっ子緑の少年団（浜中町） 浜中町推薦

活動：浜中町唯一の緑の少年団であり、緑化思想の高揚と緑化活動を通じた心身の健全な育成を目的に記念植樹、野鳥観察、環境衛生活動、レクリエーション活動等に取り組む。

- ・知床自然愛護少年団（斜里町） 斜里町推薦

世界自然遺産・知床の自然を学び、親しむことによって、心身を鍛え、郷土愛を育むため、四季を通じての山・川・海での観察会と遊び、知床の自然の学習や愛護に関する啓発活動及び奉仕活動、野外活動及び集団活動におけるマナーや技術の習得などを実践。

○一步園ジュニア自然環境賞奨励賞

- ・NPO法人 いきものいんく（伊達市） 壮瞥町教育委員会推薦
- ・上士幌町立糠平小学校（糠平町） 上士幌町教育委員会推薦
- ・士幌町立新田小学校（士幌町） 士幌町教育委員会推薦

○審査経過

平成28年 5月 26日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

平成28年 9月 27日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞7件、一步園ジュニア自然環境賞5件）

平成28年11月 27日 表彰式（出席者：34名、当財団役職員含む。会場：ホテルポールスター札幌）

○審査委員 梶本 孝博 氏（委員長）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

米津 久雄 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

（5）地域保全事業

1）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行った。

事業費（助成）

233,280円（予算額 300,000円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

## 2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費(助成) 800,000円(予算額 800,000円)

(助成先:阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会)

## (6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 600,000円(予算額 900,000円)

## 2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成28年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等を実施した。

### (1) 保全管理事業

#### 1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

## 事業費

1,923,000円（予算額 1,940,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

### 2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成27年度のエゾシカによる道内農林業被害額は42億5,000万円（前年度比3億6,000万円減）とピークであった平成23年度における64億円の被害より年々減少している。また、道内のエゾシカ推定生息数も平成22年度の66万等をピークに年々減少し、平成27年度は47万頭（前年度比4万頭の減）と推定される（北海道公表資料より）。

全道的にみると、被害額・推定生息数ともに低下しているが、北海道の定める「エゾシカ保護管理計画（第4期）H24.4.1～H29.3.31」による釧路管内を含む北海道東部地域の管理目標は、平成5年の個体数を100とした指数値を平成28年度末までに指数50とする目標に対し、平成27年度においても指数は92にとどまっており、目標達成のためには直近の20年間において最もメスのシカを捕獲した平成24年度並みの5万頭のメスジカ捕獲が必要という状況であり、依然深刻な状況が続いている。

このため、平成28年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続し森林被害防止に努めた。またこれらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を実施した。

平成28年度の事業量は、平成27年度設置の囲いワナ2基撤去、平成28年度囲いワナ2基の設置、ビートパルプ給餌735個（44,100kg、補助金活用135個を含む）および、囲いワナ（2基）による捕獲（102頭、平成29年2月～3月）およびエゾシカ防護柵修繕（4箇所）である。

なお、平成28年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置（2基）及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌

(135 個) に関しては、補助金（平成 28 年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い同補助金を活用し実施した。また、平成 29 年 2 月～3 月に捕獲したエゾシカ（102 頭）については、平成 28 年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請した。

事業費 10,185,252 円（予算額 9,050,000 円）

（請負等先：(有)前田一步園林業）

#### 事業概要

- ・ 囲いワナ撤去事業

平成 27 年度に設置した 2 箇所の囲いワナの撤去

- ・ 給餌事業

給餌場 25 箇所の給餌（平成 28 年 12 月 27 日から平成 29 年 3 月 31 日まで実施）

餌の使用量 ビートパルプ 735 個（1 個 60kg、給餌総量 44,100kg）

- ・ 囲いワナによる捕獲事業

囲いワナ 2 箇所での捕獲

（平成 29 年 2 月 14 日～3 月 22 日まで実施）

捕獲回数 15 回

捕獲頭数 102 頭

### 3) 林道事業

既設の林道・作業道の補修・改良（砂利敷 1 路線、林道倒木整理）、および台風被害復旧（倒木の除去、排水処理）を実施した。

事業費 2,672,000円（予算額500,000円）  
 （請負等先：（有）前田一步園林業）

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため、現況調査を平成29年度間伐実施予定区域である3074、3075、3076林班の天然生林にて行った。加えて、平成28年8月および9月に発生した台風・低気圧の被害調査も実施した。調査の結果、平成29年度の間伐材出材量を2,390m<sup>3</sup>（前年度計画比990m<sup>3</sup>増、内訳については表2-1に掲載）と計画した。

なお、間伐等の伐採予定面積131ha中台風等の被害面積は54ha、出材計画材積2,390m<sup>3</sup>中台風等の被害材積は1,760m<sup>3</sup>である。

また、人工林の資源量調査（平成26年度から28年度までの3カ年計画）については、台風被害調査を優先して実施したため実施を見送った（本調査は、平成29年度以降も継続）。

事業費 1,204,371円（予算額 2,710,000円）  
 （請負等先：（有）前田一步園林業）

（表2-1）平成29年度間伐材出材計画内訳

間伐の内容	出材量計画（m <sup>3</sup> ）	前年度出材量計画比（増減）
人工林間伐 針葉樹	360	+40
人工林間伐 広葉樹	50	+20
天然林間伐 針葉樹	1,580	+630
天然林間伐 広葉樹	400	+300
合計	2,390	+990

## 5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。なお、平成28年度は8、9月の低気圧・台風被害木処理（ボッケ、財団庭園）も実施した。

事業費 480,000円（予算額 500,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

## (2) 人工林保育事業

### 1) 植樹祭事業

植樹祭（500本植栽）に係る「苗木の購入」、「地拵え」、「下刈」を実施した。

事業費 283,000円（予算額 340,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

### 2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林29.51haの間伐、新規作業道の開設（670m）および伐採木（45m<sup>3</sup>）の搬出を実施した。

事業費 8,357,000円（予算額 10,780,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

作業実施林小班 間伐 : 3082-2、3083-12、3083-13 の各林小班

### (3) 天然生林改良事業

#### 1) 誘導造林事業

天然林の林分構成の充実を図るため、クロエゾマツの苗木（植栽本数12,000本、植栽面積13.39ha）の植栽を実施した。

事業費 6,830,000円（予算額 6,830,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

作業実施林小班 3083-7、3083-16、3090-14 林小班

#### 2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成23年～27年度に植栽した誘導造林地の67.95haの下刈作業を実施した。

事業費 2,213,000円（予算額 2,320,000円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

作業実施林小班 3082-10、3093-9、3095-6・16、3104-3・10・11、3105-6・7、3106-6、3107-4・5、3108-4 の各林小班

#### 3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、過熟木、衰弱木、傷害木等118.01haの間伐、植栽予定地13.39haの更新伐、伐採木938m<sup>3</sup>の搬出、および既存作業道の補修・新規作業道開設1,750mを実施した。

事業費 36,987,600円（予算額39,020,000円）

(請負等先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 3083-7・16、3088-7・9・13、3089-2・3・5・7・9・10・11・13、3090-1・8・9・10・14 の各林小班

#### (4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費

717,467円(予算額 1,180,000円)

#### (5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は21件、人数は294名であった。

おもな視察受け入れ内容

28年	5月20日	1日	天然林施業〈日本製紙釧路工場長他〉	(3名)
28年	5月31日	1日	エゾシカ対策〈北海道環境生活部長他〉	(4名)
28年	6月3日	1日	自然観察〈JICA〉	(10名)
28年	6月13日	1日	天然林施業〈JICA〉	(9名)
28年	6月28日	1日	天然林施業〈釧路税務署長他〉	(3名)
28年	7月3日	1日	天然林施業〈東京農大〉	(19名)
28年	7月21日	1日	広葉樹施業〈釧路信用金庫〉	(7名)
28年	8月4日	1日	天然林施業〈日本製紙釧路工場〉	(2名)
28年	8月5日	1日	エゾシカ対策〈北海道環境生活部〉	(3名)

28年	8月18日	1日	天然林施業〈日本製紙社長他〉（6名）
28年	9月3日	1日	自然観察〈釧路市釧路学教育講座〉（27名）
28年	9月5日	1日	自然観察〈釧路市立阿寒小3年生〉（27名）
28年	9月22日	1日	天然林施業〈JICA〉（17名）
28年	10月1日	1日	自然観察〈道新文化教室OB会〉（13名）
28年	10月18日	1日	森林散策〈釧路市立マリモ幼稚園〉（35名）
28年	10月19日	1日	自然観察〈釧路市立阿寒湖小1年生〉（14名）
28年	10月24日	1日	天然林施業〈JICA〉（14名）
28年	10月27日	1日	エゾシカ対策〈釧路市立阿寒湖小学校〉（36名）
28年	11月21日	1日	天然林施業〈JICA〉（9名）
29年	2月14日	1日	エゾシカ対策〈公益社団法人生態系トラスト協会〉（4名）
29年	2月26日	1日	自然観察〈津別町教育委員会〉（32名）

### 3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

#### (1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守・管理及び景観の向上を目的に、市街地における空地の緑化や危険木の伐採事業を行った。また、台風被害による法面崩落復旧工事、同じく台風による河川氾濫のため崩れた源泉連絡通路の復旧工事を行った。

事業費 2,063,600円（予算額 2,070,000円）

#### (2) 土地貸付

前年度に引き続き、表3-1のとおり土地の貸付を行った。

なお、有償貸付の契約件数減については、個人契約外2件の返地（敷地面積合計 536.28 m<sup>2</sup>）及び法人の新規契約1件（敷地面積 327.30 m<sup>2</sup>）に伴う差し引きによるものである。

（表3-1） 土地貸付等状況一覧

契約区分	平成28年3月現在		平成29年3月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	205件	519,584 m <sup>2</sup>	204件	519,375 m <sup>2</sup>	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115 m <sup>2</sup>	19件	346,115 m <sup>2</sup>	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会他
計	224件	865,699 m <sup>2</sup>	223件	865,490 m <sup>2</sup>	

## 4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進等を本年度も継続して行った。

### (1) 温泉供給施設の整備

#### 1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通の予備温泉ポンプ（7.5kw）を1台、12号源泉用予備の温泉ポンプ（3.7kw）を1台、及び、揚湯管（4m×8本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 2,748,000円（予算額 2,850,000円）

#### 2) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給と資源の節約に努めた。

事業費 241,000円（予算額 250,000円）

#### 3) 温泉供給施設の整備事業

11号源泉において、供給量の管理や耐久性の向上を目的に、塩ビ管のヘッダー（供給設備）をあらたにステンレス製のヘッダーに改良した。それに伴い、ヘッダーの格納施設を新築した。

事業費 4,931,310円（予算額 5,100,000円）

(2) 温泉供給用タンクの撤去事業

経年劣化により老朽化が進んでいた未利用の温泉供給用タンクの解体・撤去を行った（11号源泉、14号源泉）。

事業費 1,500,000円（予算額 1,500,000円）

(2) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成29年3月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、これら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(3) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

(表4-1) 温泉供給状況一覧

供給区分	平成28年3月現在		平成29年3月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	66件	299本	66件	299本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	69件	306本	69件	306本	

5. その他

ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託し行った。

事業費 120,000円（予算額 120,000円）